

7 福山市の環境

1 人口・世帯数

本市の2020年（令和2年）10月1日の人口は、460,930人となっており、図5に示すとおり、将来の推計値では人口が減少することが予測されています。年齢3区分別人口では、生産年齢人口（15歳～64歳）は減少傾向を示し、高齢者人口（65歳以上）は増加傾向を示しています。

本市の世帯数の推移は、図6に示すとおり、増加傾向で推移しており、2020年（令和2年）には、約193,000世帯となっています。

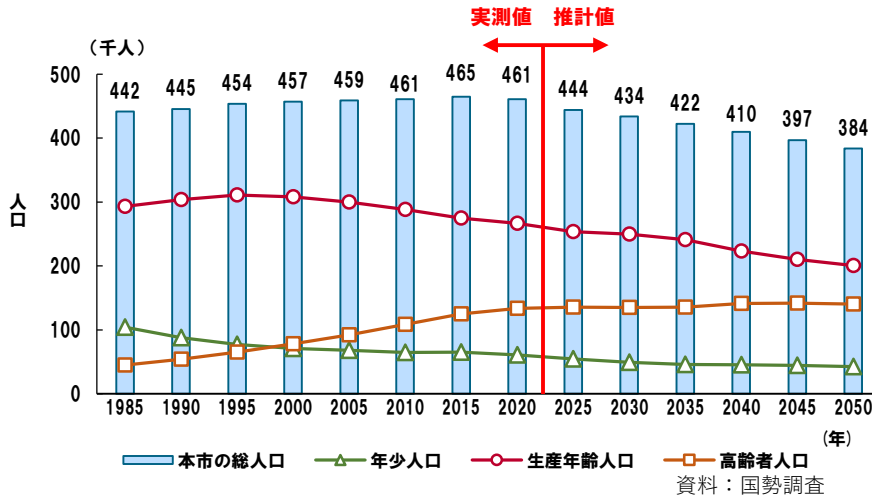


図5 福山市の人口の推移

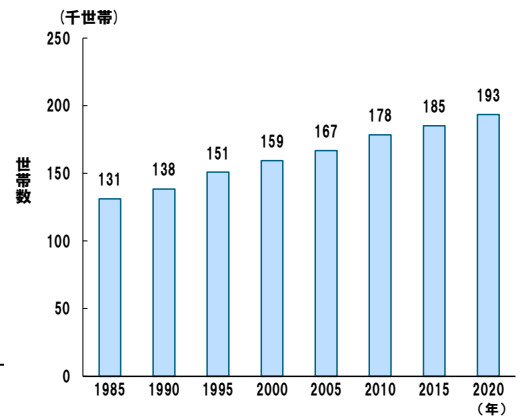


図6 福山市の世帯数の推移

2 気候

福山特別地域気象観測所で観測された1978年（昭和53年）から2023年（令和5年）までの気象観測結果は図7に示すとおり、年間平均気温は14.0～17.3℃、年間降水量は684～1,762mmとなっており、温暖で雨が少ない瀬戸内式気候の特徴を表しています。

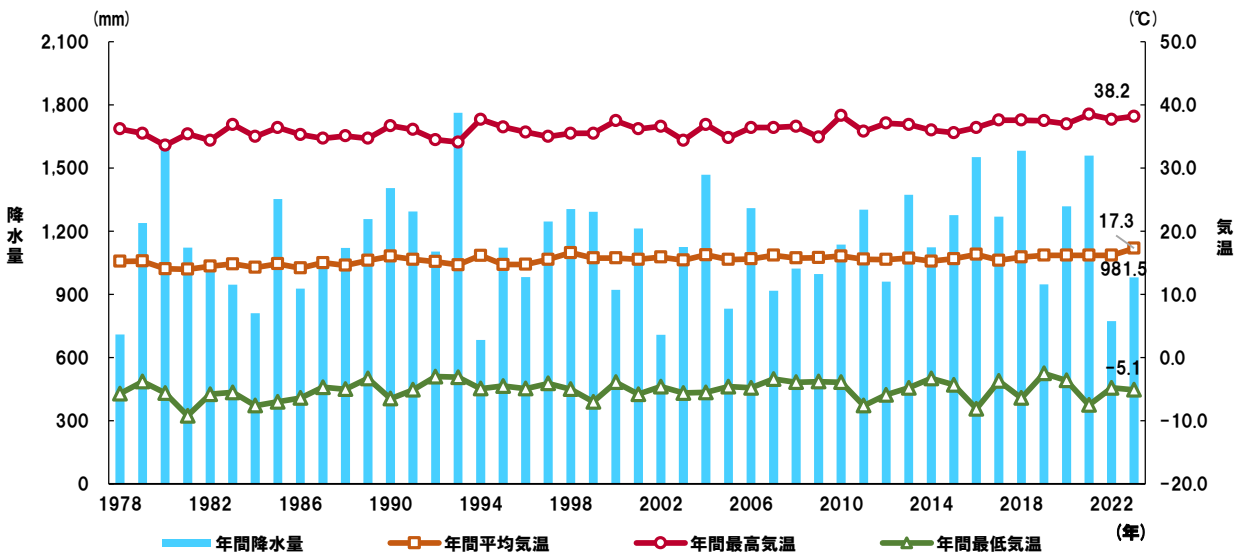


図7 福山市の気候

資料：気象庁ホームページ

3 | 産業

本市の2020年度（令和2年度）の就業者数は212,140人となっています。図8に示すとおり、第1次産業及び第2次産業は減少傾向、第3次産業が増加傾向で推移しており、第3次産業が約64%を占めています。また、2021年度（令和3年度）の事業所数は20,834事業所となっており、図9に示すとおり、第3次産業が約79.4%を占めています。

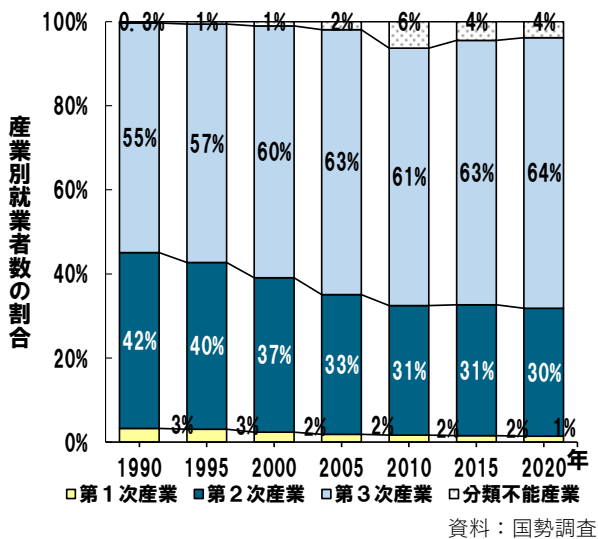


図8 産業別就業者数の割合の推移

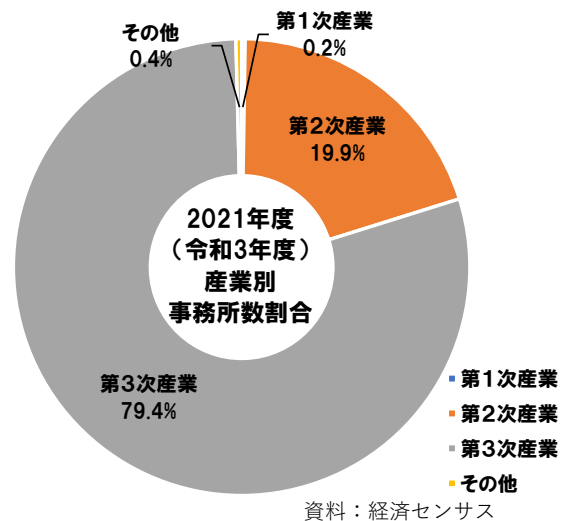


図9 産業別事業所数の割合
(2021年度〔令和3年度〕)

4 | 温室効果ガス排出量

本市の温室効果ガスの排出量は、図10に示すとおり、2018年度（平成30年度）以降は、電力の低炭素化に伴う電力由来の二酸化炭素排出量の減少等により減少傾向に転じています。

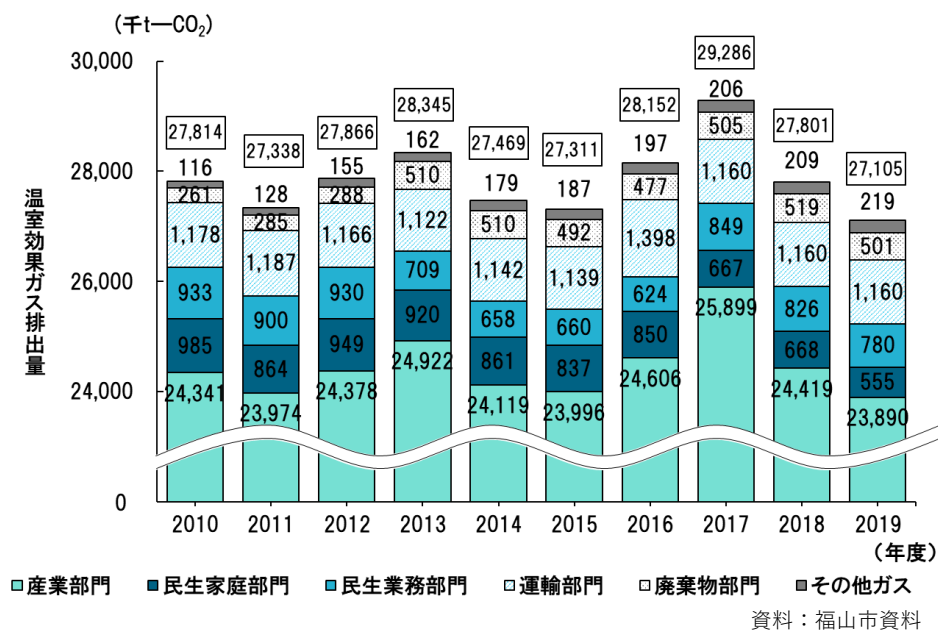


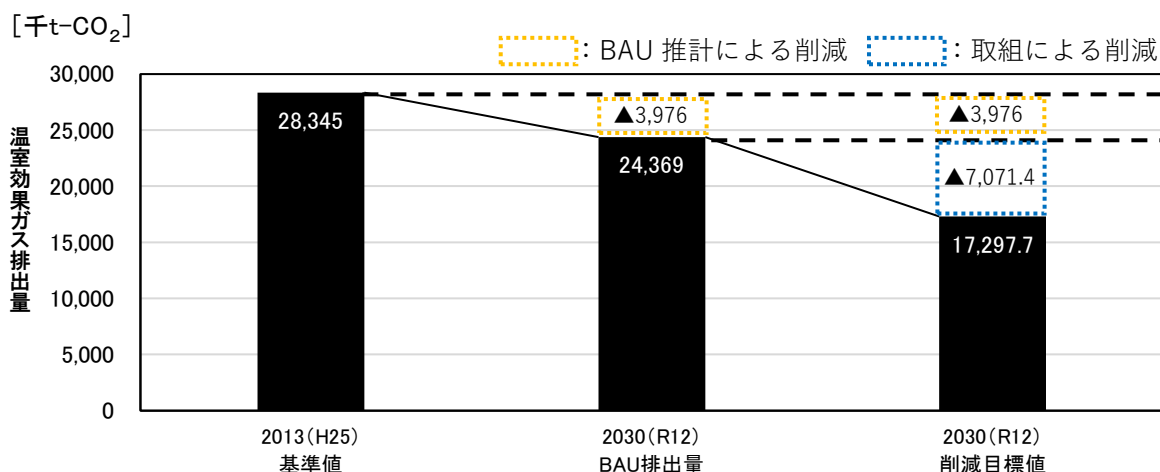
図10 温室効果ガス排出量の推移

注1) 2013年度（平成25年度）以降は推計方法が異なります。
 注2) 「廃棄物部門等」は、2012年度（平成24年度）までは、廃棄物部門のみの値、2013年度（平成25年度）以降は、廃棄物部門及びエネルギー転換部門の合計値。

5 | 温室効果ガス排出量のBAU排出量と削減目標

過年度の実績値（活動量の傾向など）を踏まえ、本市の2030年度（令和12年度）時点における温室効果ガス排出量のBAU排出量^注を試算しました。その結果は、図11及び表10のとおりであり、基準年度（2013年度〔平成25年度〕）比で14.0%減と試算しました。

また、本市の2030年度（令和12年度）における温室効果ガス排出量は、国の計画の取組のほか、市独自の取組の削減効果を積み上げ、基準年度（2013年度〔平成25年度〕）比で39.0%削減と試算しました。



注) BAU…Business As Usual の略。追加的な対策を講じなかった場合の温室効果ガス排出量

図 11 温室効果ガス排出量のBAU排出量と削減目標

表 10 温室効果ガス排出量のBAU排出量と削減目標（内訳）

	2013年度 (平成25年度) 基準年度 (a)	2030年度 (令和12年度) BAU排出量 (b)	試算した主な削減効果		
			BAU削減量 (c)=(b)-(a)	総削減効果 ^{注2} (d)	対策後排出量 (e)=(b)+(d)
産業部門(製造業)	24,841.6	20,857.6	▲ 3,984.0	▲ 5,455.8	15,449.5
産業部門 (建設業・鉱業)	64.3	36.9	▲ 27.4	▲ 14.7	22.2
産業部門(農林水産業)	15.9	27.6	△ 11.7	▲ 2.0	25.6
業務その他部門	708.7	830.3	△ 121.6	▲ 387.0	443.4
家庭部門	919.9	685.0	▲ 234.9	▲ 438.1	246.9
運輸部門(自動車)	983.9	1,069.8	△ 85.9	▲ 230.3	839.5
運輸部門(鉄道)	18.1	15.8	▲ 2.3	▲ 9.0	6.9
運輸部門(船舶)	120.2	132.4	△ 12.2	▲ 54.3	78.1
エネルギー転換部門	229.4	215.2	▲ 14.2	▲ 93.6	121.6
非エネルギー起源CO ₂ 廃棄物部門	280.8	288.0	△ 7.2	▲ 80.1	207.9
代替フロン等	115.3	165.4	△ 50.1	▲ 108.3	57.1
その他	—	—	—	▲ 198.1	▲ 198.1
総排出量	28,344.2	24,369.0	▲ 3,975.2	▲ 7,071.4	17,297.7

注1) 端数処理の関係上、計算値が一致しない場合がある。

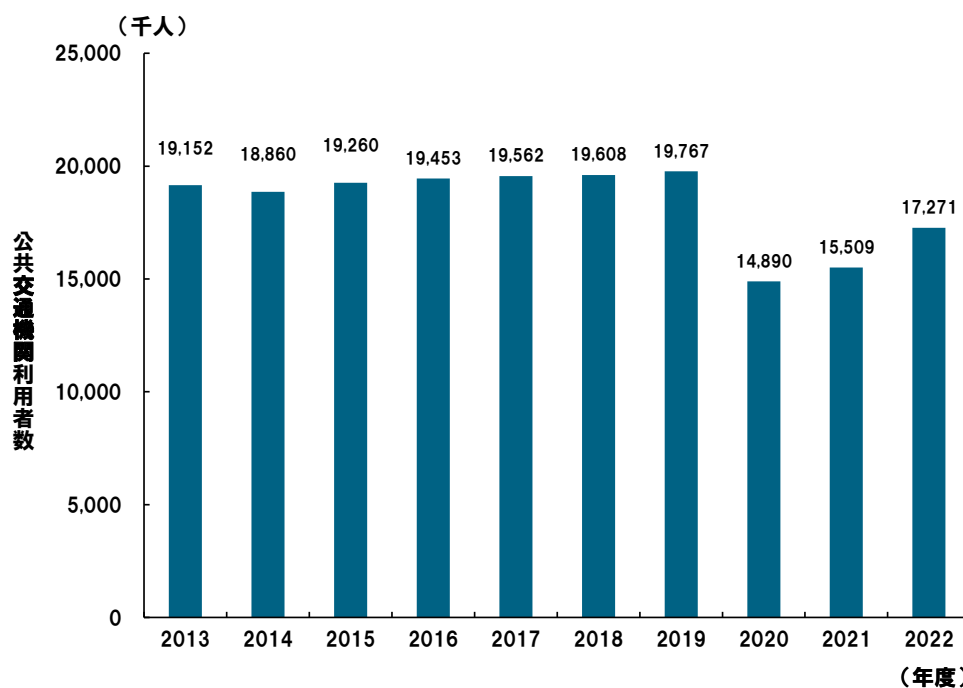
注2) 実際に実施する取組については、次の図表について整理している。

表 11 削減量の試算（主な対策・施策）

	試算した主な削減効果						総削減効果 ①～⑥の合計
	①市民・事業者の脱炭素化	②電気の低炭素化	③特定排出事業所等の削減	④プラスチックのリサイクル	⑤各業界の脱炭素化	⑥市の各種施策	
産業部門（製造業）	—	—	▲5,455.8	—	—	—	▲5,455.8
産業部門（建設業・鉱業）	—	▲14.7	—	—	—	—	▲14.7
産業部門（農林水産業）	—	▲2.0	—	—	—	—	▲2.0
業務その他部門	▲6.0	▲381.0	—	—	—	—	▲387.0
家庭部門	▲166.2	▲271.9	—	—	—	—	▲438.1
運輸部門（自動車）	▲230.3	—	—	—	—	—	▲230.3
運輸部門（鉄道）	—	▲9.0	—	—	—	—	▲9.0
運輸部門（船舶）	—	—	—	—	▲54.3	—	▲54.3
エネルギー転換部門	—	—	—	—	▲93.6	—	▲93.6
非エネルギー起源 CO ₂ 廃棄物部門	—	—	—	▲30.4	▲49.7	—	▲80.1
代替フロン等	—	—	—	—	▲108.3	—	▲108.3
その他	—	—	—	—	—	▲198.1	▲198.1
総排出量	▲402.4	▲678.6	▲5,455.8	▲30.4	▲305.9	▲198.1	▲7,071.4

6 | 公共交通機関利用者数

公共交通機関の利用者数は、図 12 に示すとおり、微増傾向で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症等の影響により、2020 年度（令和 2 年度）に利用者数が大きく落ち込みました。しかし新型コロナウイルスが 5 類に引き下げられたことから、利用者数は増加傾向にあります。

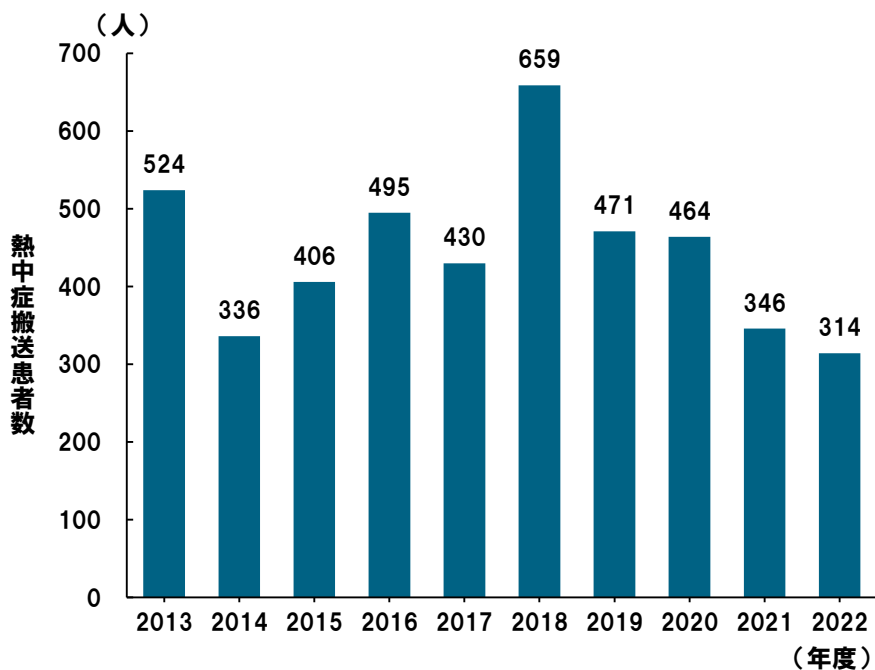


資料：福山市資料

図 12 公共交通機関利用者数の推移

7 | 熱中症搬送患者数

福山地区消防組合管内の熱中症搬送患者数は、図13に示すとおり、2019年度（令和元年度）以降は減少傾向で推移しています。

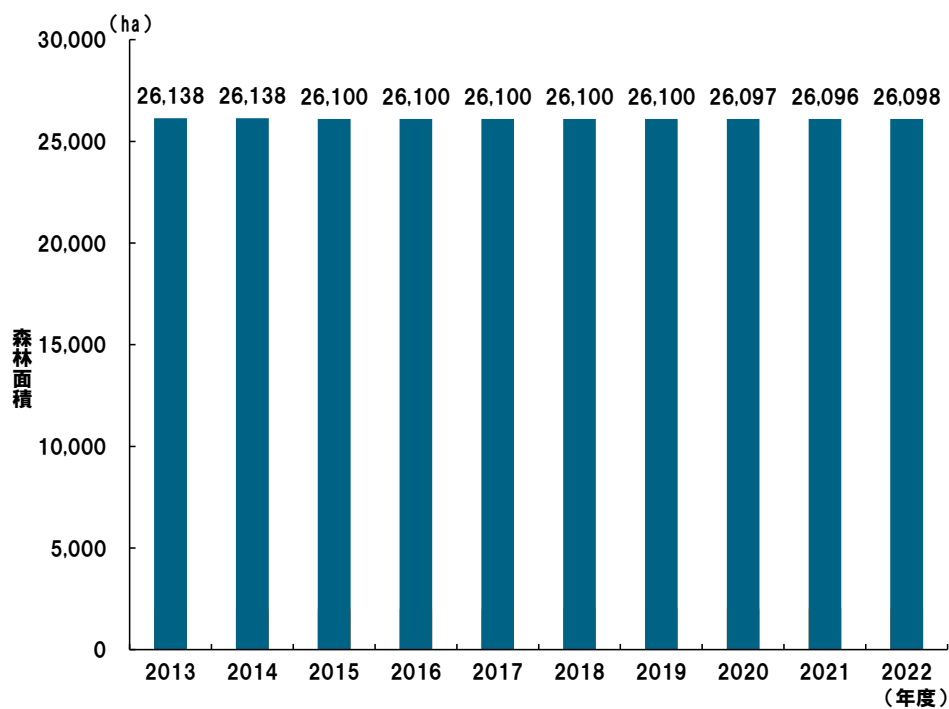


資料：福山市資料

図13 熱中症搬送患者数の推移

8 | 森林面積

本市の森林面積は、図14に示すとおり、横ばいで推移しています。



資料：福山市資料

図14 森林面積の推移

9 | ごみ排出量とリサイクル率

本市のごみ排出量は、図 15 に示すとおり、近年、家庭系ごみが減少してきていますが、事業系ごみが増加して推移しています。また、1人1日当たりのごみ排出量は、図 16 に示すとおり、全国平均よりは少ない値で推移し、近年のごみ排出量は県平均より多くなっていますが、2022年度は減少しています。

リサイクル率は、図 17 に示すとおり、RDF 事業などにより、全国及び県平均より高い水準となっていますが、横ばいで推移しています。RDF を除いたリサイクル率は、全国及び県平均より低い水準で推移しています。

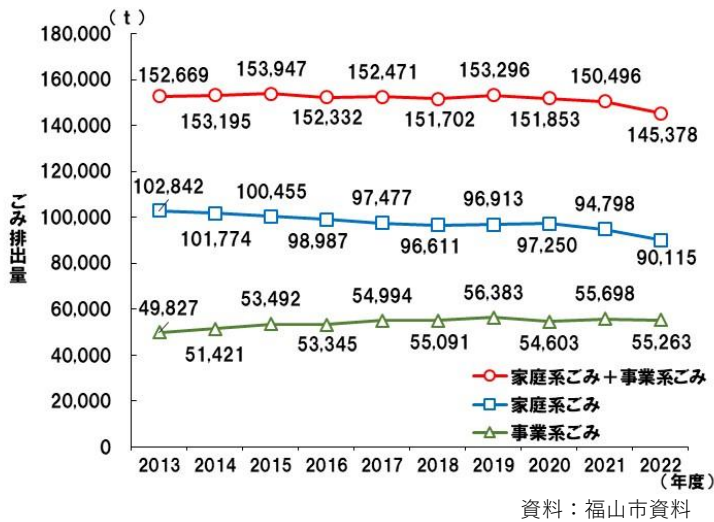


図 15 ごみ排出量の推移

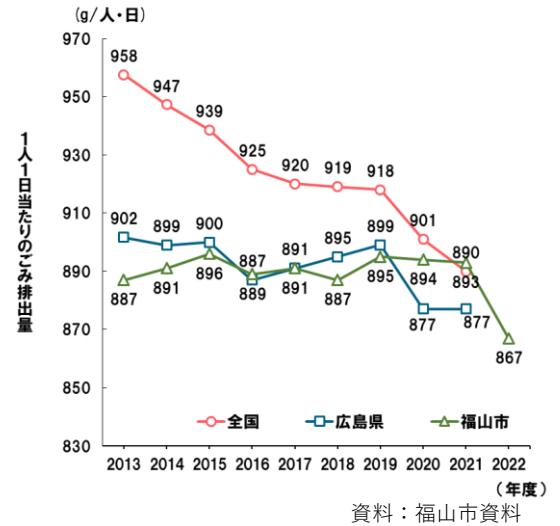


図 16 ごみ排出量の推移
(1人1日当たりのごみ排出量)

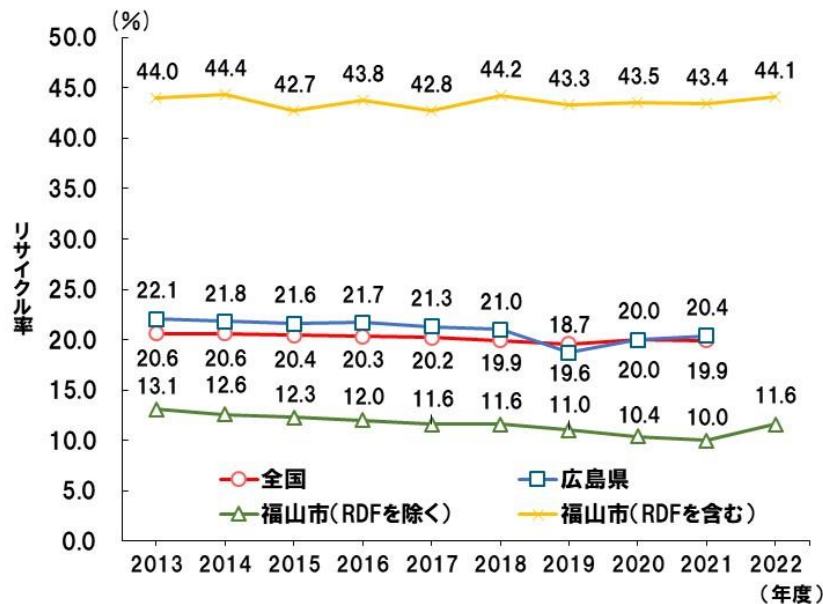


図 17 リサイクル率の推移

注) リサイクル率 (%) = ((ごみの資源化量) + [集団回収量]) ÷ ((ごみの排出量) + [集団回収量])
 リサイクル率 (RDF を含む) (%) = ((ごみの資源化量) + [集団回収量] + [RDF 製造量]) ÷ ((ごみの処理量) + [集団回収量])

10 | 不法投棄

市内の不法投棄件数及び不法投棄量は、図 18 に示すとおり、減少傾向で推移しています。

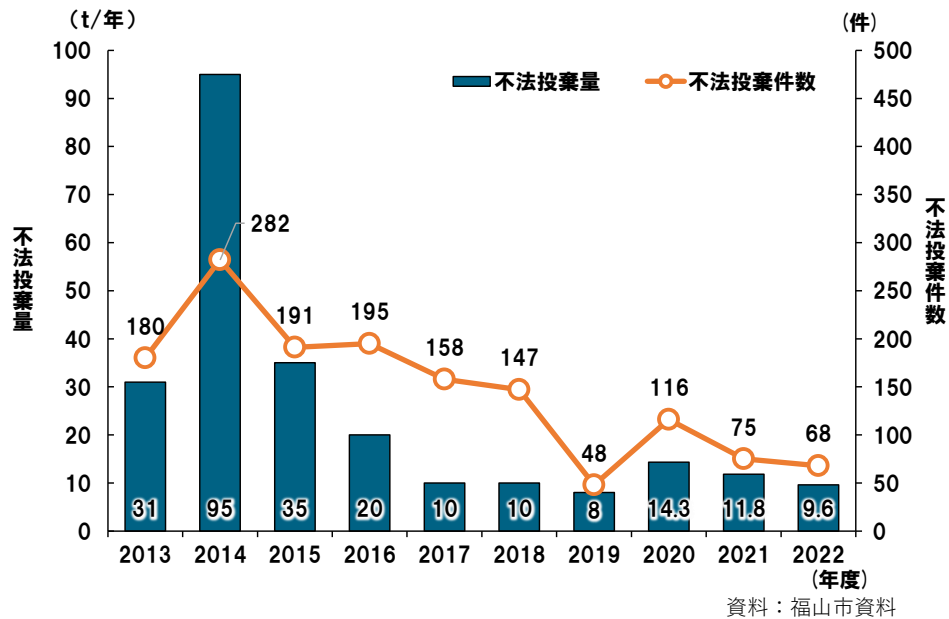


図 18 不法投棄量及び不法投棄件数の推

11 | 最終処分量

市内埋立地への最終処分量は、最終処分場延命化の取組により、減少傾向にあります。図 19 に示すとおり、近年は横ばいとなっています。



図 19 埋立地の最終処分量の推移

資料：福山市資料

12 | 大気質

本市では、8測定局（一般環境測定局7局，自動車排出ガス測定局1局）において大気汚染物質の測定を行っています。

表12に示すとおり，直近10年間の推移では，二酸化硫黄，二酸化窒素，浮遊粒子状物質，一酸化炭素，有害大気汚染物質（ベンゼン，トリクロロエチレン，テトラクロロエチレン，ジクロロメタン）は，全ての年度で環境基準を達成しています。

微小粒子状物質（PM2.5）は，改善が進み，2020年度（令和2年度）は環境基準を達成しています。

光化学オキシダントは，全ての年度で環境基準を達成していませんが，図20に示すとおり，2018年度（平成30年度）以降は，減少傾向にあります。

表12 大気汚染物質の環境基準達成測定局数の推移

項目	年度	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
二酸化硫黄		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
二酸化窒素		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
浮遊粒子状物質		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
微小粒子状物質		0%	25%	0%	40%	40%	20%	83%	100%	100%	100%
光化学オキシダント		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
一酸化炭素		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
ベンゼン		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
トリクロロエチレン		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
テトラクロロエチレン		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
ジクロロメタン		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

備考：環境基準達成率＝環境基準達成測定局数÷測定局数

資料：広島県環境データ集，福山市資料

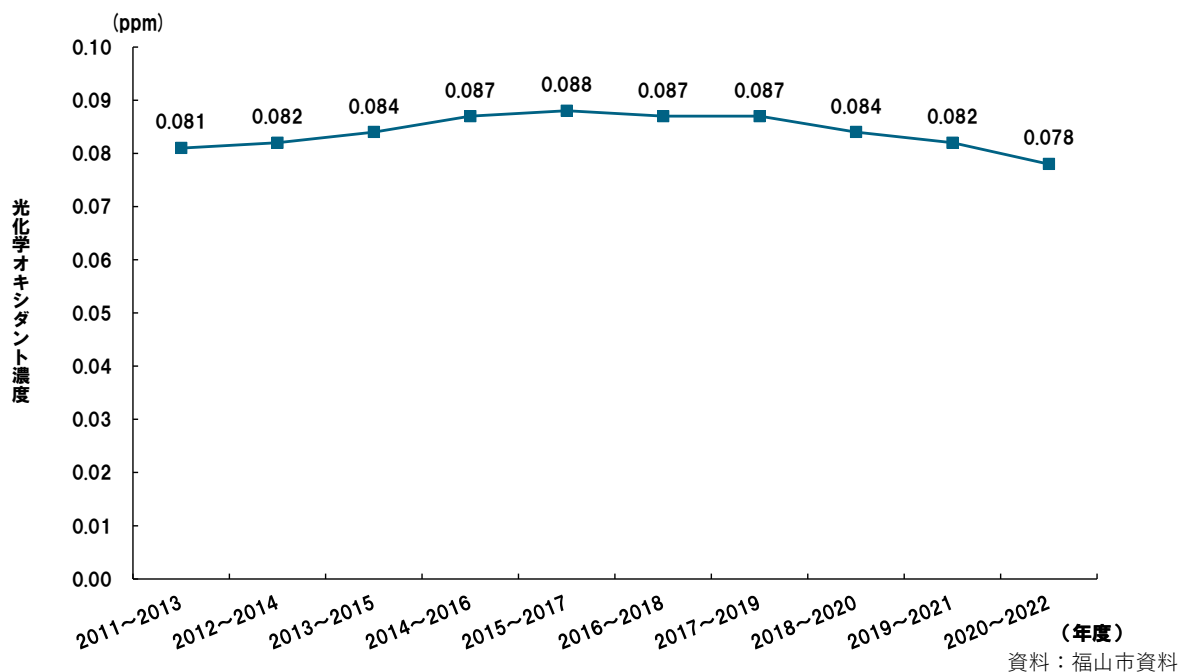


図20 光化学オキシダント濃度（8時間平均値の年間99パーセンタイル値の3年移動平均値）の推移

13 | 水質

本市では、芦田川水域 22 地点、高梁川水域 1 地点、芦田川周辺水域 10 地点、燧灘(ひうちなだ)北西部流入河川水域 5 地点、海域 11 地点で調査を行っています。

芦田川水系における BOD75%値の調査結果を整理した図 21 に示すとおり、年度によるばらつきがあるものの、多くの地点で改善傾向にあったが、2017 年度（平成 29 年度）以降、環境基準を超過する地点が増加し、2022 年度（令和 4 年度）では 5 地点で超過しています。

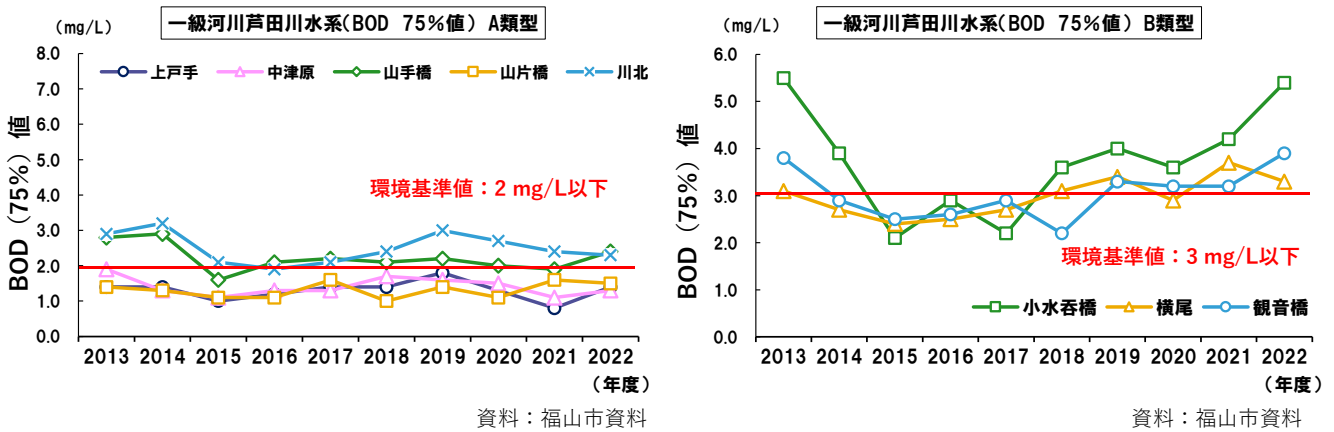


図 21 芦田川水系 BOD75%値の推移（左：A 類型，右：B 類型）

14 | 化学物質

PRTR 制度に基づく化学物質の届出排出量・移動量は、図 22 に示すとおり、近年は減少傾向となっており、2021 年度（令和 3 年度）は 2,467 t/年となっています。

また、2021 年度（令和 3 年度）の特定第一種指定化学物質の排出量は 9,967kg/年となっています。

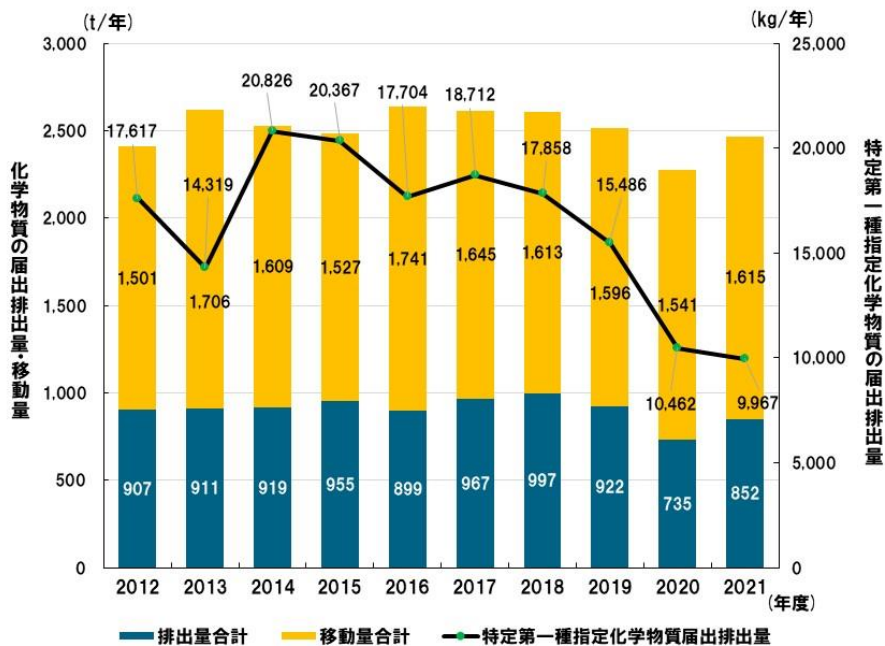
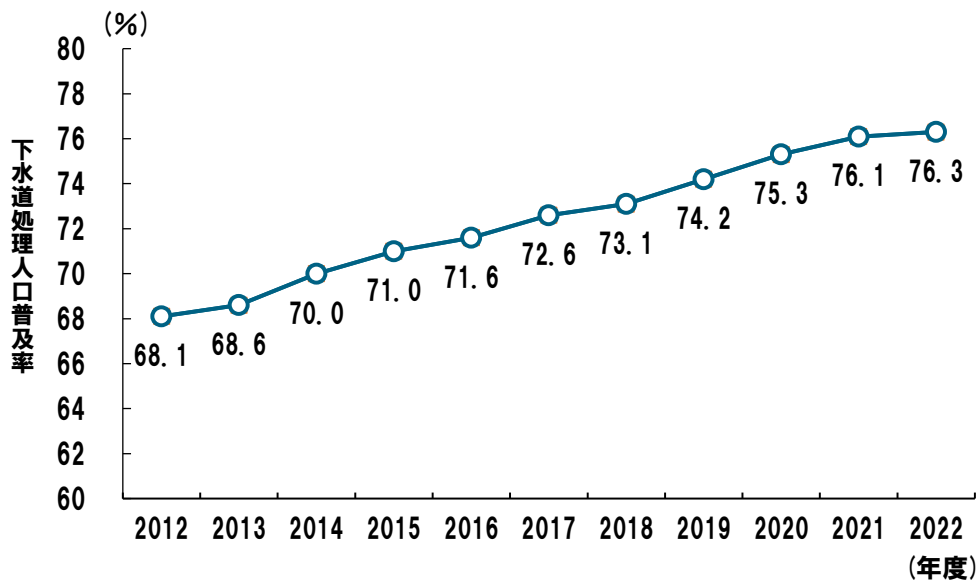


図 22 化学物質の届出排出量・移動量の推移と特定第一種指定化学物質の届出排出量の推移

15 | 公共下水道

本市の下水道処理人口普及率は、図 23 に示すとおり、増加傾向で推移しており、2022 年度（令和 4 年度）末では 76.3% となっています。

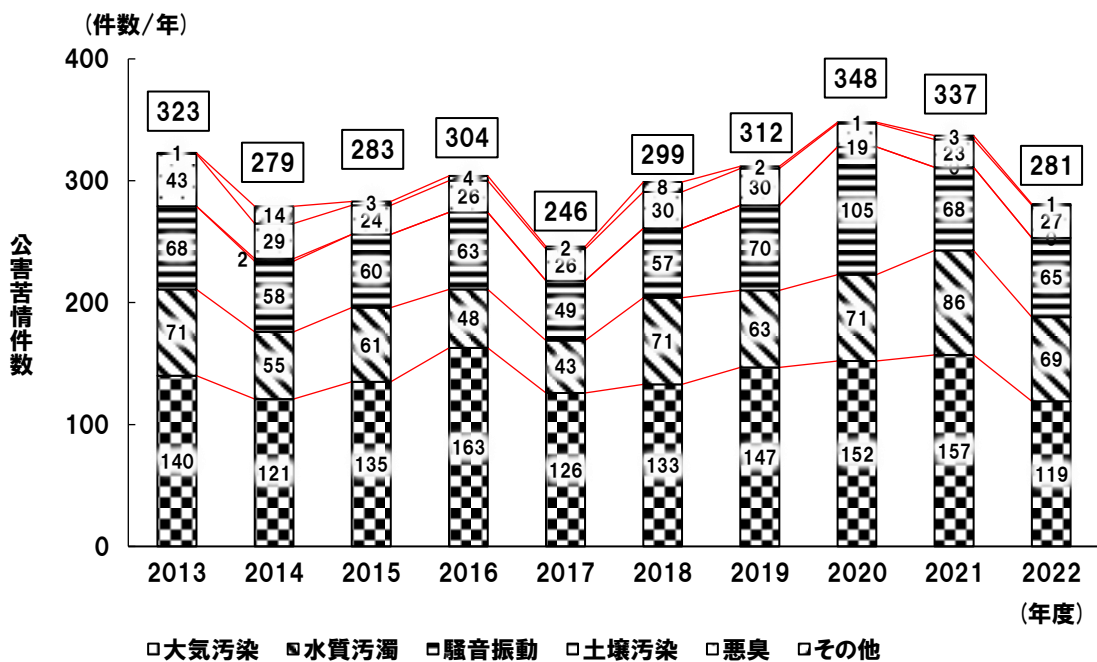


資料：福山市資料

図 23 下水道処理人口普及率の推移（公共下水道利用可能人口／行政人口）

16 | 公害苦情

市民から寄せられた苦情件数は、図 24 に示すとおり、2020 年度（令和 2 年度）以降は減少傾向となっています。



資料：福山市資料

図 24 公害苦情件数の推移

17 | 外来生物

本市は、特定外来生物のうち、表 13 に示すとおり、アライグマとヌートリアについて、外来生物法に基づく防除の確認を主務大臣から受けており、計画的に防除を行っています。また、2014 年（平成 26 年）9 月には、セアカゴケグモ、2019 年（令和元年）にはアルゼンチンアリ、2022 年（令和 4 年）にはヒアリが市内で初めて確認されました。

その他、オオキンケイギクやオオクチバス（通称：ブラックバス）、ブルーギルなどの特定外来生物の生息が市内で確認されています。

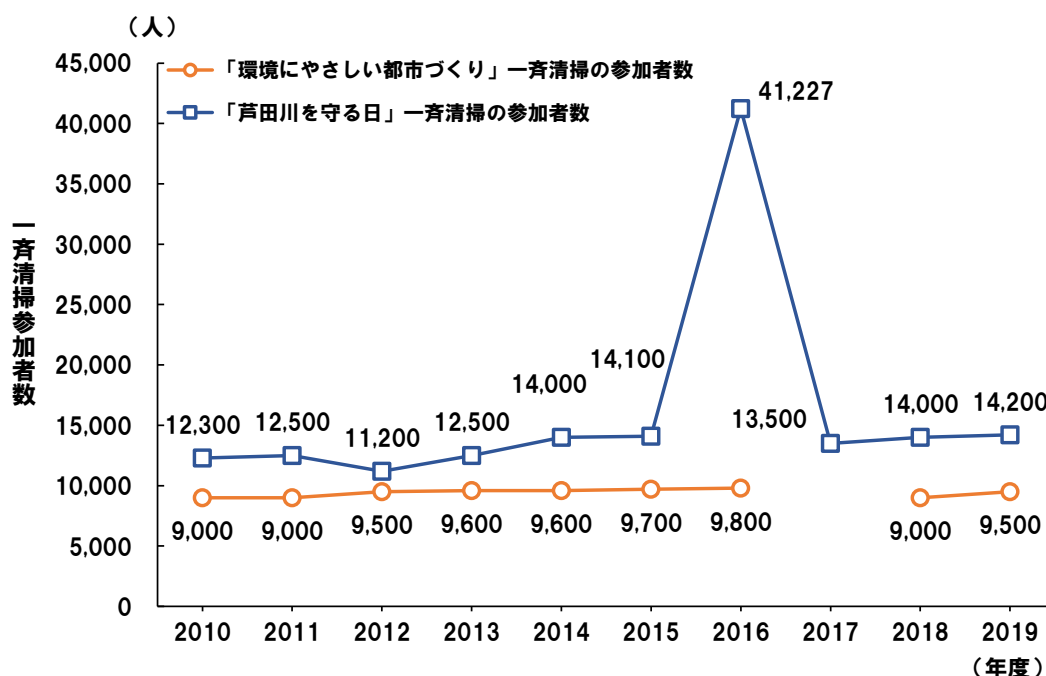
表 13 外来生物法に基づく防除

特定外来生物の種類	アライグマ	ヌートリア
防除の期間	2021 年（令和 3 年）4 月 1 日から 2031 年（令和 13 年）3 月 31 日まで	
防除を行う区域	福山市全域	
防除の方法	アライグマ及びヌートリアの生息環境、錯誤捕獲・捕獲事故の防止、捕獲効率、捕獲事例、捕獲体制等を勘案し、原則として「箱わな」による捕獲とします。	

資料：福山市資料

18 | 環境美化活動

「芦田川を守る日」一斉清掃や「環境にやさしい都市づくり」一斉清掃の参加者数は、図 25 に示すとおり、いずれも増加傾向となっています。2020 年度（令和 2 年度）から 2022 年度（令和 4 年度）の一斉清掃は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、実施していません。



資料：福山市資料

図 25 一斉清掃参加者数の推移

注 1) 2016 年度（平成 28 年度）の「芦田川を守る日」一斉清掃の参加者が大幅に増加したのは、市制施行 100 周年記念事業として特別に実施したためです。

注 2) 2017 年度（平成 29 年度）の「環境にやさしい都市づくり」一斉清掃を実施していません。